

II 調査報告

1 市場事業

平成 22 年 11 月 9 日 (火)

ランジス国際卸売市場

パリのランジス国際卸売市場は、敷地面積が約 230 ha(ヘクタール)と世界最大規模級の卸売市場であり、青果物、水産物、花き類及び食肉などを取扱う総合卸売市場である。市内の中心部にあった旧レ・アール卸売市場が手狭になり、使い勝手が悪くなるなどの問題が起こったため、1969 年にパリ市内から約 7 km 離れた郊外のランジス地区に移転し、開場した。場所はオルリー空港から 3 km ほどのところで、物流上も非常に便利である。

市場を視察して特に感じた点は、その近代的な水産卸売場棟である。2002 年に建替が完成し、卸売場や荷捌き場も含め、高床式の完全閉鎖型施設で、年間を通して館内の温度は 10℃前後に保たれている。周囲には、多くのトラックが同時に荷作業できるバースが整備されている。実際に取引を見て、荷物が整然と効率的に捌かれ、また品質管理が徹底されているとの印象を強く受けた。



水産卸売場

また、ランジス市場において仕入れを行う事業者には、ランジス市場を通った生鮮食料品であることをアピールするステッカーを無償で配布しているとのことである。これによって、消費者にランジス市場を通った生鮮食料品は新鮮で安全なものであることを周知し、ランジスブランドの確立を狙う、一種のブランドマネジメント戦略に取り組んでいるとのことである。ちなみに、実際、多くのパリ市民がランジス市場イコール安全な食品というイメージを持っているとの調査結果があるという説明もあった。



水産卸売場で説明を受ける

ランジス市場には世界中から集まる生鮮食料品を買い付けにヨーロッパ各地から卸売業者等が集まってくるが、外気や鳥や虫などの侵入を防ぐ閉鎖型施設を整備し、※HACCP（ハサップ）的視点により施設の清潔度を区分して食品への危害を防ぎ、コールドチェーンを確保した施設構造としていること、市場外流通の拡大、食の安全・安心への関心の高まりに対して市場の競争力を強化して、ハブ機能の強化、物流コストの削減、高度な衛生・品質管理機能を備えた市場にすることなど、豊洲新市場の建設に向け参考にすべき点が多くあった。



青果売場

最後に、移転に反対はなかったのかセマリスのルファール事務局長に聞くと、当時のドゴール大統領（将軍）が強いリーダーシップで移転を決定し、実行したとのことで、そのドゴール将軍が亡くなった11月9日にランジス市場を視察できたことが意味深く感じられた。

※HACCP（ハサップ）

「■HACCPとは？」

HACCPは1960年代に米国で宇宙食の安全性を確保するために開発された食品の衛生管理の手法。この方式は国連の国連食糧農業機関（FAO）と世界保健機構（WHO）の合同機関である食品規格（CODEX）委員会から発表され、各国にその採用を推奨している国際的に認められたものである。

<p>HA (Hazard Analysis) 危害分析（微生物、異物など）</p>	<p>食品の製造工程（原材料から最終製品に至るまでのすべての工程）で発生する恐れのある微生物汚染等の危害要因について調査・分析する</p>
<p>CCP (Critical Control Point) 重要管理点 (殺菌工程、包装工程など)</p>	<p>製造工程の段階で、より安全性が確保された製品を得るために、特に重点的に管理すべきポイント</p>

■ HACCP 方式と従来の製造方法の違いは

これまでの食品の安全性への考え方は、製造する環境を清潔にし、きれいにすれば安全な食品が製造できるであろうとの考えのもと、製造環境の整備や衛生の確保に重点が置かれてきた。そして、製造された食品の安全性の確認は、主に最終製品の抜き取り検査（微生物の培養検査等）により行われてきた。（製品のすべてを検査することはできない。）

HACCP 方式は、これらの考え方ややり方に加え、原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止（予防、消滅、許容レベルまでの減少）するための重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するので、不良製品の出荷を未然に防ぐことができるシステムである。」

<出典：農林水産省 HP>



水産卸売場



水産卸売場

平成 22 年 11 月 10 日 (水)

アールスメーア生花中央市場

アムステルダム市街地から車で 30 分、スキポール空港から車で 7 分に位置するアールスメーア生花中央市場は 1968 年に開設され、アールスメーア生花市場組合 (VBA) が管理している。同市場は世界最大の花き市場であり、花き生産者の協同組合組織・協同販売施設である。市場の整備計画などに対する官の関与や、卸売市場関係法令もないとの説明があった。



事務局長から説明を受ける

市場の敷地面積は 100ha (ヘクタール) であり、年間取扱量は切花 50 億 6 千万本、鉢物は 6 億本で、2,700 億円の取扱金額がある。市場内勤務者は約 1,300 人、



市場内を視察しながら、説明を受ける

市場で花を購入する卸売業者と輸出業者は約 1,050 人であり、売り手は協同組合職員で、買い手は卸売業者、輸出業者、買参権を持つ小売業者などで卸売市場内に事務所、保管施設等を有する。

卸売業者として入場するためには、商工会議所への登録が必要であり、輸出業務を行う場合、政府からの許可が必要である。

オランダにある7つの生花市場のうち、アールスメーア生花中央市場は45%のシェアを占めているとのことである。花きの生産者協同組合は、アールスメーア生花中央市場、オランダ花き市場、フローラの3組合である。



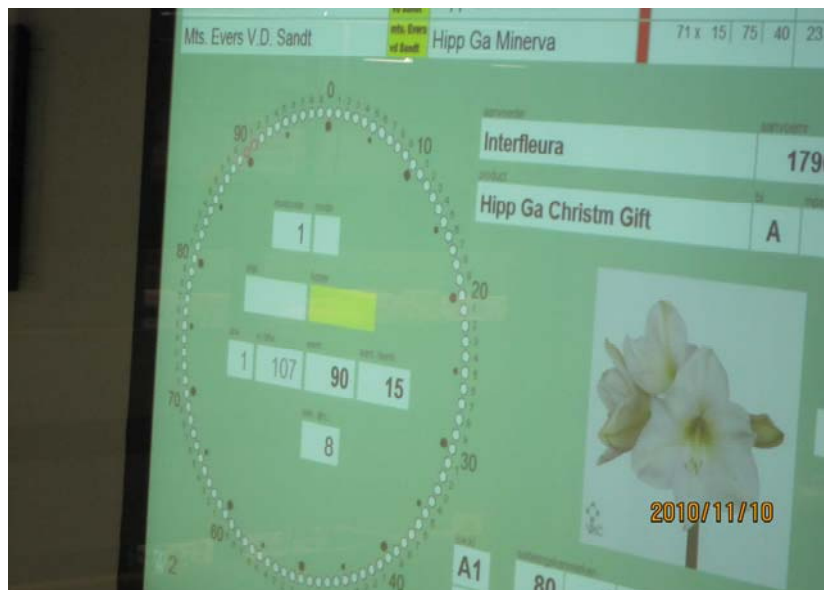
低温倉庫

生産者は品種、出荷数、品質などの出荷情報をオンラインで入力し、専用の容器、台車に積み込み出荷し、搬送している。なお、市場では搬入車両が入場した時点で、入荷量を全て把握できるとのことである。入荷全体の85%が運送業者により搬入され、入荷した花はせりにかけてられるまでの間、低温倉庫に保存されることとなる。

せりの見学をしたが、取引方法は時計せり方式が中心であり、また場内の買参人は、自分のオフィスでもせりに参加できるとのことである。出荷者に対しては委託販売手数料に台車使用料等を加えた額を差し引いて販売代金が週1回まとめて支払われる。



せり会場（定員約 220 名）



せり時計

搬入は午後 4 時から午前 4 時までで、せりは午前 6 時 30 分から始まり、せり終了後搬出される。搬入された花は 4 万 m²の低温倉庫に一旦格納される。その低温倉庫は 2℃、6℃、8℃の 3 種類の温度に設定されている。なお、仕分け場、競り場等の本体ゾーンの空調はせず、冬の寒い日だけ暖房している。また、一日の入場車両台数は 6,000 台であり、建物の屋上は全て駐車場となっている。

オランダでも、他のヨーロッパ諸国と同様に市場外流通が進歩しており、大手スーパーなどが産地から花を直接購入するようになっているとの説明を受けた。このような現状に対し、市場競争能力を強化するため2008年にアールスメーアはフローラホランドと合併した。運営経費を削減し市場を統合大型化して市場外流通を市場へ取り込み、海外新規産地の開拓により輸入品取引の増加を図っている点など豊洲新市場建設の参考とすべきである。



せり会場内は同型のバケツ（有料）を繰り返し使用



せり終了後、電気自動車で搬出

市場スペシャリスト（ing 技術者）ユース ナーバー氏と意見交換を行った。要約すると以下のとおりである。なお、これらの情報は 2010 年 11 月現在のものである。

（1）組織

理事者 9 名で運営されており、15 地域をカバーし、今も開発が続いている。2009 年度はリーマンショック等、経済危機年と言われ、花市場全体で 5%（2 億 4,000 万ユーロ）減少した。

従業員は約 4,500 人。オランダ、ベルギー、ドイツ、イスラエル、ケニア、アジア等の国々から花が集められ、売買され、世界中に輸出されている。搬入者は約 7,000 人いる。

（2）組合員

- ・組合員は商品の 100%を市場に出すことが義務付けられている。
- ・使用料・手数料は、組合費＋取扱高＋取扱量により割り出される。
- ・プロダクト スカシップ (produkt schap) 商品評議会へ取扱量、取扱高によって納められた資金（税金のような形で使用）は、商品のプロモーション等に使用される。
- ・生産者は自ら商品を決め（市場値・商品クラス等）売れた額は、手数料など差し引いて 4 日後に入金される。

（3）施設

「フローラホランドは、オランダ国内にある 6 つの市場を持つオランダ最大の花き中央市場である。2008 年アールスメア生花中央市場もフローラホランドの傘下に入り、世界トップクラスの花きと鑑賞植物の取引所として発展を続けている。

全販売拠点を合わせた年間取扱高は 40 億ユーロ、国内外 7,000 の会員によって運営される協同組合である。各市場にある 39 の競り用時計で取引きされ、その取引き回数は 1 日 12 万 5,000 回。年間で 120 億本の花と 50 万以上の鉢物が取り引きされている。」

<出典：テクニカルビジット資料>

- ・市場内は、日持ち試験、シミュレーション（物流）を含めて、温度 19°C、

湿度 60%に保たれている。

- ・切り花用バケツは、市場で清浄・リサイクルしている。それには保証金 (0.20 ~0.25 ユーロ) がかけられている。箱は1回のみもある。
- ・商品は、前日の夕方4時以降に搬入され、バラは専用の低温倉庫へ、その他の花もそれぞれ低温倉庫へと入れられる。2℃~8℃で保存され、翌朝ランダムに検査された後、せりに出す。

(4) 取扱商品

- ・取扱商品の80%が輸出される(切り花)、8%の鉢物が外国へ輸出される。
- ・商品は、バーコードにより全て{扱った場所(産地)・人名(生産者)等}判明する。

(5) 取引方法

取引方法は、時計せり方式(P.9 写真参照)及び市場仲介によって行われる。また、購買員は年間1,200ユーロをデポジットとし、購買商品を置き、扱う場所代、サービス料を支払う。

商品の40%がKOA(インターネットによる購買方法のソフトの名前)を使って市場内時計によって売買される。KOAの使用料は年間250ユーロである。

今後、KOAにより購買せり室が縮小され、せり時間の短縮を進める予定である。

《取引方法の割合》

- ・時計せり取引…切り花90%、鉢物30%が行われている。
- ・市場仲介取引…切り花10%、鉢物70%が行われている。

取引後、18kmに及ぶシャトル・トラックで30社~40社の購買者へと市場から搬送される。

(6) オランダフローラホランドが大きくなった要因

- ・良いプロモーション

どのような花が好まれるか、流行している洋服の色と合うか等、調査して生産者へ指導を行っている。

- ・幅広い種類と、良き環境

気候的条件、花を愛するヨーロッパの国民性、10本・20本・30本と花束を購入する習慣を考慮している。

- ・幅広いネットワーク

EU を始めとして、世界各国において幅広いネットワークがある。

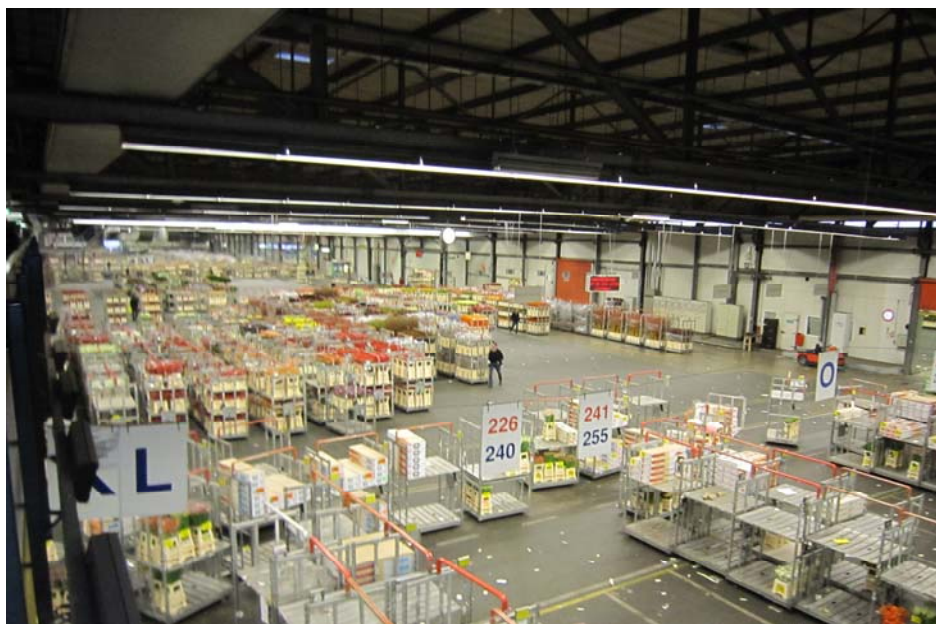
(7) 輸出植物防疫所

市場内には輸出植物防疫所があり、国から検疫員が派遣され、輸出時はあわせ検査が行なわれる。部屋はさほど広くなくテーブルの上に白い紙がひかれ、その上で花をぱらぱら振り、虫（毛虫、てんとう虫）が落ちてくれば、そのパーティーがすべて廃棄される。

日本への輸出品は、日本の検疫官が日本の法律によって検疫しているが、日本の中央卸売市場内には、輸出植物防疫所が指定されていない。今後、輸出の検疫員の派遣体制を充実させるなどの施策について、都議会自民党として国に対して提言をしていきたい。

(8) 日本への輸出

- ・日本には 770 万ユーロの切り花が輸出されている。
- ・羽田空港の拡張でアメリカより早く花が日本へ到着する。ゆえに、日本市場への花の輸出を増加させることが出来る。アメリカの花屋より、日本の花屋にスピーディーに花が並ぶことは可能であり、東京の市場関係者と連絡できれば努力したい。



海外に向けて発送